



Infor Ming.le-LN Plug-in ユーザガイド (LN UI)

リリース 10.6.x

重要事項

本書に含まれる資料(あらゆる補足情報を含む)は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料(当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む)、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約(この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます)に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的(以下、「目的」という)として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲読に基づく権利、権原及び利益(すべての修正、翻訳または翻案を含む)は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは本書に含まれる資料を正確で完全なものとするべく注意を払っていますが、Inforは本書に含まれる情報が完全で、誤植やその他の誤りがなく、使用者の特定要件に合致するものであることを保証しません。したがって、Inforは、本書(あらゆる補足情報を含む)の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

リリース: Infor LN 10.6.x

発行日: 2018年2月20日

ドキュメントコード: ln_10.6.x_inuipuginug__ja-jp

目次

このガイドについて.....	7
Infor へのお問い合わせ.....	7
第 1 章：概要.....	9
サイドナビゲーションバー.....	9
アプリケーション画面.....	10
セッション内のメニューバー.....	10
サインイン.....	13
サインアウト.....	13
第 2 章：キーボードショートカット.....	15
入力フィールドのキーボードショートカット.....	15
ボタンのキーボードショートカット.....	17
フォームコマンドのキーボードショートカット.....	17
第 3 章：LN UI での作業.....	19
オプションメニュー.....	19
ユーザプロファイル.....	22
ハイパーリンクサポート.....	22
第 4 章：LN での作業.....	25
セッションの切り替え.....	25
ブックマーク.....	25
セッション内のレコード検索.....	25
セッション内のレコード選択.....	26
チェックボックスの選択/選択解除によるレコードの選択/選択解除.....	26
読取専用フィールドのクリックによるレコードの選択/選択解除.....	26
全レコードの同時選択.....	27
会社番号の変更.....	27
DEM 会社の変更.....	28
[DEM 会社は ERP 会社と常に同じ] 設定.....	28
複数メインテーブルセッション.....	28
MMT の機能.....	28
フィルタ.....	29
フィルタ行の使用 (簡易フィルタ).....	29
[フィルタ] メニューの使用.....	29
オートコンプリート.....	30

概要.....	31
オートコンプリートの使用.....	31
セッションの個人用設定.....	32
フォームの個人用設定.....	32
ツールバーの個人用設定.....	34
メニューの個人用設定.....	34
グリッドカラムの即時の移動.....	35
カラムの固定.....	35
列またはフィールドの非表示.....	35
個人用設定のエクスポート、インポート.....	35
メニューの個人用設定.....	36
重要度ラベルのサポート.....	36
条件付フォーマット.....	37
条件付フォーマットの定義.....	38
条件付きフォーマットの無効化.....	38
MS Excel の統合.....	39
一般設定の指定.....	40
MS Excel にデータをエクスポート.....	40
MS Excel からのデータのインポート.....	41
顧客定義フィールド.....	42
前提条件.....	42
顧客定義フィールドの追加.....	42
セッションの個人用設定.....	43
セッションのプロパティの表示.....	43
カラムとフィールドのオンラインヘルプの表示.....	43
セッションのカラムの強調表示.....	43
グリッド内のカラムサイズの変更.....	44
画像.....	44
画像の追加.....	44
画像の削除.....	45
ION Workflow サポート.....	45
クイックフロー.....	45
クイックフローによるプロセスの最適化.....	46
メッセージと質問の抑制.....	47
メッセージと質問の非表示設定を元に戻す.....	47
デフォルトの出力アクションの設定.....	47
第 5 章 : DEM の概要.....	49
DEM プロセスの使用.....	49
DEM プロセスの開始.....	49

第 6 章 : インターナショナル化.....51

このガイドについて

文書の概要

この文書には、Infor Ming.le-LN Plug-in の使用方法が記載されています。

この文書の図の一部は、前のバージョンの Infor Ming.le-LN Plug-in リリースのものである場合もあります。ご使用の Infor Ming.le-LN Plug-in 画面とは異なることもあります。その場合でも、機能は同じです。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するご質問は、Infor Xtreme サポートポータル (<http://www.infor.com/inforxtreme>) をご利用ください。

製品リリース後にドキュメントを更新した場合は、Infor Xtreme に新しいバージョンを掲載します。この Web サイトでドキュメントの改訂を定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントについてのご意見は、documentation@infor.com にお寄せください。

Infor Ming.le-LN Plug-in は、さまざまな Infor LN 用の Web ベースクライアントユーザインタフェースです。Infor Ming.le-LN Plug-in には、Infor LN および Enterprise Server 10.3 またはそれ以降が必要です。

Infor Ming.le-LN Plug-in は Infor Ming.le™ 内のページで実行されます。

Infor Ming.le の LN ページには、LN セッションの表示を開始できるサイドナビゲーションバーとアプリケーション画面があります。

ページの右側には、[投稿] や [関連情報] などの Infor Ming.le コンテキストアプリケーションがある、折りたたみ可能な画面があります。これらのコンテキストアプリケーションのほとんどは Infor Ming.le-LN Plug-in のみではなく、Infor Ming.le のどのアプリケーションでも利用できます。『Infor Ming.le User Guide』を参照してください。

サイドナビゲーションバー

この表は、サイドナビゲーションバーの項目です。

LN メニューボタン または DEM ナビゲーションボタン	LN ユーザデータで LN メニューブラウザが選択されている場合は、LN メニューボタンが表示されます。これらのボタンをクリックして、LN メニュー構造をナビゲートしてセッションを開始します。サイドナビゲーションバーに表示するメニューボタンは、LN ユーザデータのスタートメニューで設定します。サイドナビゲーションバーでセッションをクリックすると、セッションはアプリケーション画面に表示されます。 LN ユーザデータで DEM プロセスブラウザが選択されている場合は、DEM ナビゲーションボタンが表示されます。
[オプション]メニューボタン	これは、サイドナビゲーションバーにある最後のメニューボタンです。 19 ページの「オプションメニュー」を参照してください。

アプリケーション画面

開始した LN セッションや DEM プロセスはアプリケーション画面に表示されます。

セッションタブ

複数のセッションを開始すると、最後に開始したセッションのみがアプリケーション画面に表示されます。他のセッションは開いた状態のままになります。開いたままのセッションのタブが、LN 画面の上に表示されます。

開いている他のセッションに移動するには、該当するタブをクリックします。

セッションを閉じるには、該当するタブの十字形アイコンをクリックします。

最近使用した項目

最近閉じたセッションのサムネイルは、アプリケーション画面に保存されます。これらのサムネイルを表示するには、LN ページの上部にある [最近使用した項目] タブをクリックします。

サムネイルをクリックしてセッションを開始することができます。セッションはアプリケーション画面に表示されます。

サムネイルを削除するには、サムネイルの上にマウスをポイントし、サムネイルの右上の十字形の記号をクリックします。

セッション内のメニューバー

セッションのメニューバーにはコマンドボタンとメニューボタンがあります。

さまざまなセッションで、レコードはグループごとに表示されます。そのようなセッションでは、グループ間を切り替えるためのボタンがセッションの上部に表示されます。グループ内にある複数のボタン間をナビゲートするためのボタンは、グリッドの上部に表示されます。

注: グリッドのあるセッション内に、下矢印ボタンのあるチェックボックスがグリッドの上に表示されます。このチェックボックスならびに下矢印ボタンのメニューに表示されるオプションを使用すると、グリッド内のすべてのレコードを選択、選択解除できます。

この表は、セッションに表示されるボタンです。

ボタン	説明	ショートカットキー
	変更されたレコードを保存してセッションを閉じます。	e
変更を保存して終了		
	変更されたレコードを保存します。	s
保存		
	レコードの変更箇所を破棄します。	z

ボタン	説明	ショートカットキー
	前回保存時の状態に戻す	
	新しいレコードを追加します。	c
新規作成		
	レコードのコピーを作成します。	d
複製		
	選択されたレコードを削除します。	Del
削除		
	現在のレコードデータを表示します。	u
画面の更新		
	レポートを出力します。 下矢印ボタンをクリックして利用可能な出力セッションを表示します。	p
出力		
	レコードの検索基準を指定するための、[検索] セッションを開始します。検索基準を指定できるのは、現在表示されているフィールドのみが対象となります。 下矢印ボタンをクリックして利用可能な検索インデックスを表示します。	f
検索		
	一般的なエクスポート設定で指定されるデフォルトのエクスポートに基づいたエクスポートを実行します。 さらに追加のオプションとインポートオプションが[アクション]メニューから利用できます。 39 ページの「MS Excel の統合」を参照してください。	なし
Excel		
	[テキストエディタ]を開始します。 この機能は、LN サーバーにツールのソリューション 1604255 またはそれ以降がインストールされていると使用できます。旧バージョンのツールでは、[参照] から [テキストエディタ] を開始します。	t
テキストの編集		
	最初のレコードへジャンプします。	ホーム
先頭レコード		
	前のレコードへジャンプします。	Page Up
前のレコード		
	次のレコードへジャンプします。	Page Down
次のレコード		
	最後のレコードへジャンプします。	End

概要

ボタン	説明	ショートカット キー
最終レコード		
 新規ビュー	1つまたは複数のフィールドで同一の値が存在するレコードのグループを作成または検索します。これらのフィールドはセッションの上部に表示されます。セッションにズームインしてグループのレコードを選択することができます。新しいレコードをグループに追加するには、[Ctrl]+[N] キーを押すか、[新規] () をクリックします。	なし
 レコードをビューから他のビューへコピー	レコードの範囲を現在のグループから他のグループにコピーします。 このボタンをクリックした後、次のステップを実行します: <ol style="list-style-type: none">1 コピーする最初のレコードを選択します。2 コピーする最後のレコードを選択します。3 レコードのコピー先となるグループを指定します。	なし
 最初のビュー	最初のグループのレコードを表示します。	なし
 前のビュー	前のグループのレコードを表示します。	Shift+Page Up
 次のビュー	次のグループのレコードを表示します。	Shift+Page Down
 最後のビュー	最終グループのレコードを表示します。	なし
ビュー	LN セッションの標準コマンドがあります。 Infor Web Help の「基本タスク」の章を参照してください。	なし
参照	現在のセッションに関するコマンドがあります。このようなコマンドとは通常、開始に関するセッションや特殊機能です。	なし
アクション	LN セッションの標準コマンドと現在のセッションに関するコマンドがあります。セッションに関するコマンドとは通常、開始に関するセッションや特殊機能です。	なし
 ヘルプ	現在のセッションのオンラインヘルプが表示されます。 このボタンのメニューには次のコマンドがあります。 <ul style="list-style-type: none">• [プロパティ (CTRL+SHIFT+8)] セッションのプロパティを表示します。43 ページの「セッションのプロパティの表示」を参照してください。• [現行セッションのヘルプ (h)]	h

ボタン	説明	ショートカットキー
	<p>セッションの個人用設定、条件付フォーマットの定義、顧客定義フィールドの定義などのコマンドがあるメニューを開きます。以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 32 ページのセッションの個人用設定 • 37 ページの条件付フォーマット • 42 ページの顧客定義フィールド 	なし

注:

- ショートカットキーはコマンドモードでのみ使用できます。15 ページの「キーボードショートカット」を参照してください。
- メニューバーには、現在のビューに関するさらに 2 つのプルダウンメニューを表示できます。

サインイン

- 1 Infor Ming.le へサインインします。

インターネットブラウザを開いて、Infor Ming.le URL を指定します。

詳細に関しては、Infor Ming.le 管理者にお問い合わせください。

- 2 Infor Ming.le トップナビゲーション画面で、このアイコンをクリックして [アプリケーションメニュー] を開きます。



- 3 このアイコンを選択します。



サーバにログインされます。ログオン時には、前回ログインした日時が表示されます。他のユーザがユーザアカウントを使用したかどうかを確認するときなどに、この機能が便利です。ログオンすると、前回ログインした日時がアプリケーション画面の下にあるステータスバーに表示されます。

ユーザプロフィールに関する詳細については、22 ページの「ユーザプロフィール」を参照してください。

サインアウト

- 1 Infor Ming.le トップナビゲーション画面で、このアイコンをクリックして [ユーザーメニュー] を開きます。



2 [サインアウト] を選択します。

注: これによって Infor Ming.le ならびにこのセッションでアクセスしたすべてのアプリケーションからサインアウトします。

3 インターネットブラウザセッションを閉じます。

ナビゲートしたり、特定のコマンドを実行するキーボードショートカットについて説明します。

LN UI においては、以下のモードがあります。

- コマンドモード
- 入力モード

コマンドモードにおいては、キーボードショートカットが有効になります。これは、セッションが開始したときのデフォルトのモードです。コマンドモードで [?] キーを押すと、サポートされているキーボードショートカットに関するヘルプのページが表示されます。[ヘルプ] ボタンのメニューからもこのヘルプページを開くことができます。

ユーザがマウスを使用するか [Tab] キーを押してフォーカスを入力フィールドに移動すると、入力モードに変わります。ユーザが次のアクションの 1 つを行うと、コマンドモードに切り替わります。

- フォーカスを入力フィールド以外のフィールドに移動したとき
- [Esc] キーを押したとき

コマンドモードでは [Esc] キーを再度押しても何も実行されません。

入力フィールドのキーボードショートカット

この表は、フィールドタイプ別のキーボードショートカットです。

フィールドタイプまたはダイアログ	ショートカット	処理内容
テキスト入力フィールド	Ctrl+C	コピー
	Ctrl+V	貼り付け
	Ctrl+X	切り取り
	Ctrl+A	全て選択
	Ctrl+Z	前回の変更を元に戻す
参照ボタンのあるフィールド	Ctrl+B	ブラウザセッションを開く
ドロップダウンリストボックスフィールド	Alt+ ↓	ドロップダウンリストを開く
	↓	リスト内の次の項目を選択

キーボードショートカット

フィールドタイプまたはダイアログ	ショートカット	処理内容
フィールドタイプまたはダイアログ	↑	リスト内の前の項目を選択
	[文字キー]	[文字キー]で開始する最初の項目を選択 (大文字と小文字を区別する比較)
	Esc	ドロップダウンリストを閉じ、変更箇所を無視
	Enter	ドロップダウンリストを閉じ、変更箇所を確定
日付フィールド	Alt+ ↓	日付の選択を開く
	↑	カレットの位置により、日あるいは月、年を増分 ← と → で移動
	↓	カレットの位置により、日あるいは月、年を減少 ← と → で移動
日付の選択ダイアログ	→ ← ↑ ↓	日付間の移動
	PageUp	前月
	PageDown	翌月
	Shift+PageUp	前年
	Shift+PageDown	来年
	t	今日
	Esc	日付の選択を閉じ、変更箇所を無視
	Enter	日付の選択を閉じ、変更箇所を確定
時間フィールド	↑	カレットの位置により、時間あるいは分、秒、午前/午後を増分 ← と → で移動
	↓	カレットの位置により、時間あるいは分、秒、午前/午後を減少 ← と → で移動
チェックボックスフィールド	スペース	選択間の切り替え
ラジオボタンフィールド	→ ← ↑ ↓	ラジオボタン間をナビゲート
	スペース	フォーカスのあるオプションを選択

ボタンのキーボードショートカット

この表は、ボタンを有効にできるキーボードショートカットです。

ボタンの種類	ショートカット	処理内容
フォームボタン	スペースまたは Enter	フォーカスのあるオプションを有効にします
メニューボタン		
ドリルダウンボタン		

フォームコマンドのキーボードショートカット

フォームコマンドは LN で定義されます。これらのコマンドのキーボードショートカットには 2 つの範囲があります。

- [Ctrl]+[Shift]+[[文字キー]]
- [Ctrl]+[F[<n>]]。この場合 [<n>] = 1 ~ 12

これらのキーの組み合わせは、インターネットブラウザのショートカットキーとの競合が発生する可能性があります。したがって、別のキーボードショートカットとしてマップされます。

次の表は、フォームコマンドのキーボードショートカットのマッピングです。

フォームコマンドのキーボードショートカット	LN UI のキーボードショートカット
Ctrl+Shift+[文字キー]	Shift+[文字キー]
Ctrl+F[<n>]。この場合 [<n>] = 1 ~ 12	[<k>]。この場合 [<k>] の値は次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [<n>] = 1 ~ 9 の場合、[<k>] = [<n>] • [<n>] = 10 の場合、[<k>] = 0 • [<n>] = 11 の場合、[<k>] = Shift+1 • [<n>] = 12 の場合、[<k>] = Shift+2

オプションメニュー

[オプション] メニューには次のオプションがあります。

プログラムの実行 (g に続き r)

[プログラムの実行] ダイアログから、セッションを開始します。

このダイアログからセッションを開始するには:

- 1 セッションコードを入力します。
- 2 [OK] をクリックします。

注:

- [開く] フィールドで、以前に開始したセッションをリストから選択することができます。
- [新規ウィンドウで開く] チェックボックスが選択されている場合は、セッションは別ウィンドウで開かれます。このチェックボックスをオフにすると、Infor Ming.le アプリケーションパネルでセッションが開始されます。

会社の変更 (g に続き c)

[会社の変更] セッションが開始します。

27 ページの「会社番号の変更」を参照してください。

現在の役割の変更

[現在の役割の変更 (tttsk2009m000)] セッションが開始します。

このオプションは LN 管理者が役割をユーザアカウントに指定した場合にのみ使用できます。役割には、特定のユーザグループに対するセッションの個人用設定やメニューの個人用設定などという個人用設定が含まれます。

別の役割に変更すると、個人用設定の別のセットがアクティブ化されます。したがって、異なるメニューとセッションが表示されることもあります。たとえば、別の役割に変更してからセッションを再開すると、セッションに表示されるフィールドの数が異なる場合もあります。

現在の役割は、ブラウザウィンドウの下部にあるステータスバーに表示されます。

個人用設定の詳細については、36 ページの「メニューの個人用設定」および 32 ページの「セッションの個人用設定」を参照してください。

メニューの個人用設定

[メニューの個人用設定 (ttadv9205m000)] セッションが開始します。

36 ページの「メニューの個人用設定」を参照してください。

データ言語の変更

ご使用の LN サーバで多言語フィールドのサポートが有効化されている場合にのみ、このオプションを利用できます。Enterprise Server Web Help の「多言語アプリケーションデータ」を参照してください。

[データ言語の変更] を選択すると、[データ言語の変更 (ttask2006m000)] セッションが開始されます。

このセッションで、データを他の言語に変更することができます。多言語が有効化されているセッション内では、このようにしてデータを多言語で表示したり編集することができます。

データ言語を変更すると、ERP セッションを次回起動するときに、セッションが変更したデータ言語で表示されます。すでに開いているセッションの場合、データ言語は前のままとなり、変更されません。

注:

- LN UI 各セッションのステータスバーの会社番号の横に、現在のデータ言語が表示されます。
- LN サーバ上の ([ユーザデータテンプレート (ttams1110m000)] セッション上の) ユーザデータテンプレートのプロパティで [データ言語の変更を許可] チェックボックスがオンになっている場合にのみ、データ言語を変更できます。

トレースモードの有効化

ブラウザと LN UI Web サーバ間のメッセージフローを表示する新規ウィンドウを開きます。コンテンツをダウンロードして、トラブルシューティングに利用できます。

設定

ユーザ設定を管理できる新規ウィンドウが開きます。

22 ページの「ユーザプロファイル」を参照してください。

デバッグおよびプロファイル 4GL

Infor LN Studio アクティビティにチェックアウトしたソフトウェアコンポーネントのテストにこのオプションを使用します。

このオプションを選択すると、[デバッグおよびプロファイル 4GL (ttadv1123m000)] セッションが開始します。このセッションを使用して、テストするコンポーネントがあるアクティビティを選択します。セッションのヘルプおよび LN Studio ドキュメントを参照してください。

割り込みなしメッセージモード

このオプションでメッセージのモードを変更します。

- このオプションを選択すると、LN は割り込みなしメッセージモードを利用します。フィールドへ入力したデータは、別のフィールドに移動した時点で自動的に検証されます。LN は、別のメッセージウィンドウにメッセージを表示するため、実行中の作業が中断されることはありません。
このメッセージウィンドウは自動表示されません。セッションのステータスバーの点滅するアイコンで、新規メッセージの受信をお知らせします。このアイコンをクリックすると、メッセージウィンドウが開きます。あるいは、[g] を押してから [i] を押します。
- このオプションを選択しないと、LN は対話式メッセージモードを利用します。フィールドへ入力したデータは、別のフィールドに移動した時点で自動的に検証されます。LN は、フィールドの検証に関するメッセージをメッセージボックス内に表示します。[OK] をクリックしてメッセージボックスを閉じると、作業を継続することができます。

システムメッセージ (g に続き y)

現在のシステムメッセージが表示されます。

Bshell デバッグ

[bshell のランタイムデバッグ (ttstpbshdebug)] セッションを開始します。

このセッションを使用して、bshell のデバッグオプションをランタイム時に設定、変更します。セッションのヘルプを参照してください。

これらの bshell デバッグオプションは、Bshell 環境 ダイアログの [コマンド] フィールドを使用して [ランタイム前] に設定することもできます。これを行うには、ご使用のユーザプロファイルでこのアプリケーションの構成の設定を変更する必要があります。

22 ページの「ユーザプロファイル」を参照してください。

再開 (Ctrl+Del)

LN UI を再開します。これにより、簡単にログオフして再度ログインできます。ユーザ名とパスワードを入力する必要はありません。これは、ユーザデータに変更があった場合に bshell を再開して新規設定をロードするときなどに便利です。

注:

- LN セッションなどのプログラムを実行中である場合は、確認を求めるメッセージが表示されます。
- 実行中のプログラムが閉じられます。
- 保存されていない変更箇所は失われます。

バージョン情報

展開と環境に関する情報が表示されるダイアログボックスが開始します。

ユーザプロフィール

LN UI では、ユーザプロフィールにユーザ指定の UI 設定が保存されます。以下は、ユーザプロフィールに保存される設定の例です。

- [プログラムの実行] ダイアログの履歴
- 最近使用した項目
- BSE コマンド

LN UI を初めて開始した時点で、デフォルトのユーザプロフィールが自動的に作成されます。

[オプション] メニューの [設定] オプションで、次のアクションを実行できます。

- ユーザプロフィールの変更
- ユーザプロフィールの追加作成
- デフォルトユーザプロフィールの選択

詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ユーザプロフィールの管理

ユーザプロフィールを管理するには:

- 1 [オプション] > [設定] を選択します。新規ブラウザウィンドウが開き、そこに現在選択されている環境で利用できるユーザプロフィールが表示されます。
- 2 変更するユーザプロフィールの詳細を選択します。ここで例えば BSE 環境など、変更ができます。
- 3 変更が完了したら [保存後終了] を選択します。

[新規] と [削除] ツールバーボタンを使用して、ユーザプロフィールを作成、削除します。

現在選択されているユーザプロフィールをデフォルトとして指定するには、[デフォルトの設定] をクリックします。デフォルトのユーザプロフィールとは、LN UI を次回開始すると使用されるプロフィールです。デフォルトが指定されていない場合は、LN UI を開始すると最初のユーザプロフィールが使用されます。

ハイパーリンクサポート

テキストベースのフォームフィールドに URL のみがある場合は、LN UI でハイパーリンクアクションを実行できます。

次はその例です。

- <mailto:info@techwrite.com>
- <http://www.techwrite.com>

リンクのテキストは下線付きで表示されます。ハイパーリンクを起動するには、[Ctrl] キーを押しながらリンクをクリックします。

「<http://www>」リンクを起動すると、デフォルトのインターネットブラウザ内に該当する Web ページが表示されます。

「mailto:」リンクを起動すると、デフォルトの電子メールプログラムでメールが新規作成されます。

LN UI では、複数行のテキストフィールドと LN テキストエディタにおけるハイパーリンクはサポートされていません。

セッションの切り替え

セッションタブ

複数のセッションを開始すると、最後に開始したセッションのみがアプリケーション画面に表示されます。他のセッションは開いた状態のままになります。開いているセッション毎に、LN ページの上部にタブが表示されます。

開いている他のセッションに移動するには、該当するタブをクリックします。

セッションを閉じるには、該当するタブの十字形アイコンをクリックします。

注: DEM プロセスの実行を切り替えることもできます。49 ページの「DEM プロセスの開始」を参照してください。

ブックマーク

LN セッションへのリンクとなるブックマークを作成できます。Infor Ming.le の [ブックマーク] ウィジェットにブックマークが表示されます。

『Infor Ming.le User Guide』を参照してください。

セッション内のレコード検索

- 1 [f] を押します。
[検索] ダイアログボックスが開始します。
- 2 複数のインデックスが利用できる場合は、ダイアログの左側で使用したいインデックスを選択します。
このダイアログには該当する入力フィールドが表示されます。
- 3 任意のコード、値、またはその一部を最低 1 フィールドに入力します。

1つ以上のフィールドに値を入力すると、LNではすべての検索条件に一致するレコードが検索されません。検索では、大文字と小文字は区別されません。

4 検索を開始するには、[OK] をクリックします。

検索が終了すると、[検索] ダイアログボックスが閉じます。最初に見つかったレコードがリストされません。レコードが見つからない場合は、最も近いレコードが表示されます。

セッション内のレコード選択

セッションのアクションには、アクションを実行するには1つ以上のレコードを先ず選択する必要のあるアクションもあります。例えばレコードを削除するには、レコードを選択してから [削除] をクリックします。

概要セッションでは、レコードの選択や選択解除は幾つかの異なる方法で実行できます。次のセクションを参照してください。

チェックボックスの選択/選択解除によるレコードの選択/選択解除

レコードを選択または選択解除するには、グリッド内の行の前に表示されているチェックボックスをオンまたはオフにします。

- レコードを選択するには、グリッド内の該当する行の前にあるチェックボックスをオンにします。レコードの選択を追加するには、このステップを繰り返します。
- 選択されたレコードの選択を解除するには、該当する行の前にあるチェックボックスをオフにします。
- レコードの範囲を指定して選択するには、その範囲の最初のレコードのチェックボックスをオンにします。[Shift] キーを押しながら、範囲内の最後のレコードのチェックボックスをオンにします。選択した最初と最後のレコード、およびそれらの間にあるすべてのレコードが選択されます。

範囲内にあるレコード数が多い場合は、選択中に進捗ウィンドウが表示されます。このウィンドウに表示される [中止] をクリックすると、指定したすべてのレコードの選択が解除されます。

読取専用フィールドのクリックによるレコードの選択/選択解除

レコードを選択または選択解除するには、グリッド内の行の読取専用フィールドをクリックします。

- レコードを選択するには、グリッド内の該当する行の読取専用フィールドをクリックします。
- レコードの選択を追加するには、[Ctrl] キーを押しながらグリッド内の該当する行の読取専用フィールドをクリックします。
- 選択されたレコードの選択を解除するには、[Ctrl] キーを押しながら該当する行の読取専用フィールドをクリックします。

このアクションを実行すると、レコードの選択状況が反転します。まだ選択されていないレコードに対してこのアクションを行うと、そのレコードが選択されます。

- レコードの範囲を指定して選択するには、その範囲の最初のレコードの読取専用フィールドをクリックします。[Shift] キーを押しながら、範囲内の最後のレコードの読取専用フィールドをクリックします。選択した最初と最後のレコード、およびそれらにあるすべてのレコードが選択されます。
範囲内にあるレコード数が多い場合は、選択中に進捗ウィンドウが表示されます。このウィンドウに表示される [中止] をクリックすると、指定したすべてのレコードの選択が解除されます。

注: 最低 1 つのレコードを選択している場合、[Ctrl] キーまたは [Shift] キーを押さずに他のレコードの読取専用フィールドをクリックすると、その選択はキャンセルされます。つまり、新しいレコードのみが選択されます。既に選択されているレコードの選択は解除されます。

全レコードの同時選択

全レコードを一度に選択または選択解除できます。

- 全てのレコードを選択するには、[Ctrl] + [A] キーを押します。あるいは、セッションウィンドウの左上に表示されるチェックボックスをオンにします。
レコード数が多い場合は、選択中に進捗ウィンドウが表示されます。このウィンドウに表示される [中止] をクリックすると、指定したすべてのレコードの選択が解除されます。
- 全てのレコードの選択を解除するには、[Ctrl] + [D] キーを押します。あるいは、セッションウィンドウの左上に表示されるチェックボックスをオフにします。

会社番号の変更

LN UI では会社の変更機能は、[オプション] メニューからアクセスできます。ここで会社を変更すると、次回セッションを起動するとき、新規会社で起動されます。すでに開いているセッションの場合、会社は前のままになります。

DEM 権限と、Infor LN あるいは Baan 権限の両方がある場合は、会社を変更すると問題が発生することがあります。DEM と同時に使用できない会社に対して Infor LN または Baan 権限を持っている可能性もあります。DEM ナビゲーションでは、ユーザプロファイルのものと同じ中央モデリング会社を指定した会社のみ切り替えることができます。会社がユーザプロファイルの中央モデリング会社と異なる場合は、DEM ツリーからセッションを開始することができなくなります。システム管理者に連絡して、ご利用のユーザプロファイルを変更してもらってください。

DEM 会社の変更

定義

LN 会社 (ERP 会社)

ユーザデータで設定されている会社。([オプション] メニューの)[会社の変更] アクションから変更可能。
この会社はメニューナビゲーションに適用されます。

DEM 会社

DEM により使用される会社。DEM 会社は DEM プロジェクトモデルに関係しています。
LN UI のユーザプロファイルの作成時に、DEM 会社とプロジェクトモデルを指定します。

[DEM 会社は ERP 会社と常に同じ] 設定

[DEM 会社は ERP 会社と常に同じ] の設定により、DEM が LN 会社を自動的に使用するかどうかを決定します。これは、ユーザプロファイルで設定できます。デフォルトでは、この設定はオンに設定されています。

複数メインテーブルセッション

LN UI は複数メインテーブル (MMT) セッションをサポートします。

複数メインテーブルセッションは、アプリケーションを簡単に使用できるように設計されています。複数セッションを1つのセッションにまとめることによって、日常の作業に使用するセッション数を減少します。MMT セッションでは、データの入力や変更、削除が行えます。MMT セッションは、該当情報の概要を迅速に提供します。

複数メインテーブルセッションは次の2つの部分で構成されています。

- ヘッダセッション: 統合セッション。複数メインテーブルセッションにあるヘッダセッションは1つのみです。ヘッダセッションは画面上部に表示されます。
- 関連セッション: 各 MMT セッションで使用できるセッションの種類。関連セッションは画面下部に表示されます。

MMT の機能

MMT セッションタイプには、ディープコピーまたは削除の機能があります。MMT セッションでのディープコピーと削除では、すべての関連セッションにおけるヘッダとすべてのラインをコピーや削除できます。

MMT セッションでは、常に保存が行われています。以下の場合にご使用のデータが保存されます。

- フォーカスをヘッダセッションから関連セッションに移動したとき
- フォーカスを関連セッションから関連セッションに移動したとき

フィルタ

フィルタを使用して画面上に表示するレコード数を制限します。

フィルタ行の使用 (簡易フィルタ)

グリッドの上部にあるフィルタ行によりデータをフィルタするには:

- 1 グリッドの上部にフィルタ行が表示されていないときは、次のステップを実行します。
 - a グリッドカラムヘッダーにあるこのアイコンをクリックします。



- b [フィルタ行の表示] を選択します。

- 2 フィルタ行の入力フィールドでフィルタ基準を指定できます。
フィルタ基準を変更するには、次のステップの 1 つを完了してください。

- フィルタ行にある 1 つのフィールドをクリックします。
- コマンドモードで、[/] を押します。
15 ページの「キーボードショートカット」を参照してください。

フィールドのフィルタ演算子を変更するには:

- a フィルタ行にあるフィールドの前に表示される演算子アイコンをクリックします。
- b 演算子を選択します。

また、高度なフィルタリングも使用できます。これは、ある値を基にフィルタリングを行った結果を更に新しい基準でフィルタするものです。

注: 簡易フィルタを使用できるフィールドの数は、LN の構成の設定により指定されます。[パラメータのメンテナンス (ttaad0100m000)] セッションのオンラインヘルプを参照してください。

[フィルタ] メニューの使用

[フィルタ] メニューを開くには、グリッドカラムヘッダーにあるこのアイコンをクリックします。



[フィルタ] メニューが表示されます。メニューには次のオプションがあります。

[フィルタの実行]

現在指定されているフィルタ基準でフィルタを開始します。

[フィルタのクリア]

現在のフィルタを無効にします。

[現行フィルタを別名で保存]

現在のフィルタを保存します。

[保存したフィルタ]

このメニューには、ユーザが保存したフィルタが表示されます。次のオプションがあります。

- [フィルタの管理]
[フィルタ (ttadv9593m000)] セッションが開始します。このセッションで、フィルタを削除したり、フィルタオプションを更に指定してフィルタを修正します。詳細は、セッションのヘルプを参照してください。
- [現行フィルタをデフォルトに設定]
現在のフィルタをデフォルトフィルタとして保存します。

[フィルタの設定]

このメニューには次のオプションがあります。

- [大文字小文字を区別する]
フィルタで大文字と小文字を区別するには、このオプションを選択します。
例: [大文字小文字を区別する] オプションを選択して、カラムに対してフィルタ値の「ABC」を入力します。大文字の「ABC」を含むカラムのみのレコードが表示されます。「abc」や「Abc」などがあるカラムのレコードは表示されません。
- [インスタントフィルタ]
このオプションを選択すると、簡易フィルタ領域のフィールドからタブを使用して移動した時点で、直ちにフィルタを実行します。
[インスタントフィルタ] がオフの場合は、簡易フィルタ領域で [Enter] キーを押したときに、データがフィルタされます。
- [デフォルト文字列フィルタ演算子]
このオプションを選択すると、文字列タイプのフィールドに対するデフォルトフィルタ演算子が設定されます。次の演算子のうちの 1 つを選択します。
 - [次で開始]: フィールドのコンテンツは指定した文字で開始します。
 - [次の値を含む]: フィールドのコンテンツは指定した文字を含みます。指定したデフォルト設定は、セッションの再開後に有効になります。

オートコンプリート

オートコンプリート機能の使用方法について説明します。

概要

オートコンプリートを使用すると、最初の数文字を入力するだけで入力候補が自動的に表示され、そこから選択できるようになります。

オートコンプリート機能は、ズームセッションが設定されているフィールドで利用できます(該当するテーブルフィールドに別のテーブルへの関係が設定されている場合のみ)。

オートコンプリート機能が実装されているフィールドには、下矢印がある専用のズームボタンが表示されます。

注: セグメント化されたフィールドでは、オートコンプリートは利用できません。

オートコンプリートの使用

ズームフィールドでオートコンプリートを開始するには、フィールドに数文字を入力してから [TAB キー] を押します。一致する項目が見つかると、一致する項目を表示するリストが表示されます。次の例を参照してください。

例

デバイスデータセッションの [ロケール] フィールドに「I」を指定してから、[TAB キー] を押します。「I」で開始するロケールのリストが表示されます。

注意内容

- オートコンプリートリストには7項目のみが表示されます。表示されているもの以外の候補があれば、リストの最後に [その他] ボタンが表示されます。これは、ズームボタンと同じズーム機能をトリガします。
- 一致する項目とは、関連テーブルの1次キーが入力値で開始する項目です。
- 説明による検索ができるように設定されているフィールドでは、入力値で開始する説明をもつ項目が表示されます。
- 検索では、大文字と小文字を区別します。
- フィールドにより多くの文字を入力するほど、検索が狭まります。
次はその例です。従業員セッションの部署フィールドに「0」を入力してから、[TAB キー] を押します。「0」で開始する部署が表示されます。「1」を指定します。「01」で開始する部署が表示されます。
- 現在使用中(表示中または入力中)の項目がリストに表示されるので、セッションの現行状況において項目が有効である必要はありません。
- リスト内で項目が選択されると、[TAB キー] を押したり他のフィールドをクリックした時点でその値が選択(フィールドにコピー)されます。
- リストを閉じるには、[ESC] キーを押します。

セッションの個人用設定

セッションを個人用に設定することができます。次のアクションを実行できます。

- フォームの個人用設定
- デフォルトを個人用設定に保存
- デフォルトを個人用設定から削除
- ツールバーの個人用設定
- 概要セッションのフィールドの個人用設定
- グリッドカラムの即時の移動
- その他のアクション
- 個人用設定のエクスポート、インポート

フォームの個人用設定

このオプションで、フォームフィールドを非表示にしたり再表示したり、さらにフィールドラベルを変更します。

LN サーバ上の ([ユーザデータテンプレート (ttams1110m000)] セッション上の) ユーザデータテンプレートのプロパティで [アプリケーションの個人用設定を許可] チェックボックスがオンになっている場合にのみ、このオプションを使用できます。

概要セッションでは、このオプションを使用することによってグリッドの表示フィールドやカラムを個人用設定することができます。

フォームを個人用設定するには:

- 1 セッションのメニューバーにあるこのボタンをクリックします。



- 2 [フォームの個人用設定 ...] を選択します。
[個人用設定] ワークベンチが開始します。

- 3 フォームを個人用設定します。
以下のようなアクションを実行できます。

- フィールドのフォーマット (太字、斜体など)
- フィールドのラベルテキストの変更
- フィールドの非表示・再表示の切り替え
- フィールドの順序変更

[個人用設定] セッションのオンラインヘルプを参照してください。

- 4 変更箇所を保存してから、[個人用設定] ワークベンチを閉じます。

デフォルトを個人用設定に保存

出力セッションと処理セッションでは、現在のフィールド値をデフォルトとしてセッションの個人用設定に保存できます。

LN サーバ上の ([ユーザデータテンプレート (ttams1110m000)] セッション上の) ユーザデータテンプレートのプロパティで [アプリケーションの個人用設定を許可] チェックボックスがオンになっている場合にのみ、このオプションを使用できます。

注:

- 該当する出力セッションまたは処理セッションを開始する前に、概要セッションで行を選択することができます。その場合、範囲フィールドの適用された個人設定デフォルト値が選択した行の値で変更されます。

他のオプションにおいては、適用された個人用設定のデフォルト値が使用されます。

- これは、クイックフローが有効化されたコマンドにも適用されます。

フィールド値をデフォルトとして保存するには:

- 1 セッションのメニューバーにあるこのボタンをクリックします。



- 2 [デフォルトを個人用設定に保存] を選択します。

編集可能な全てのフィールドの値がセッションの個人用設定に保存されます。

- 3 デフォルト値を適用する先のフィールドを指定します。

フィールドに対して保存されたデフォルトを使用するには、[個人用設定] ワークベンチの [フィールドプロパティ] 画面にある [適用] チェックボックスをオンにします。

[個人用設定] セッションのオンラインヘルプを参照してください。

デフォルトを個人用設定から削除

これは、出力セッションと処理セッションでのみ使用できるオプションです。

LN サーバ上の ([ユーザデータテンプレート (ttams1110m000)] セッション上の) ユーザデータテンプレートのプロパティで [アプリケーションの個人用設定を許可] チェックボックスがオンになっている場合にのみ、このオプションを使用できます。

セッションの個人用設定に保存されたデフォルトを削除するには:

- 1 セッションのメニューバーにあるこのボタンをクリックします。



- 2 [デフォルトを個人用設定から削除] を選択します。

セッションの個人用設定から全ての保存された値が削除されます。

ツールバーの個人用設定

ツールバーにボタンを直接移動したり、非表示にしたりできます。

- ツールバーボタンの順序を変更するには、ツールバー上の移動したい場所までボタンをドラッグします。他のボタンの前または後にボタンをドロップします。他のボタンの上にはドロップできません。
- ツールバーボタンを非表示にするには、ボタン上で右クリックしてから [ボタンの非表示] を選択します。

[ツールバーの個人用設定] コマンドで、さまざまな個人用設定を指定できます。

ツールバーを個人用設定するには:

- 1 セッションのメニューバーにあるこのボタンをクリックします。



- 2 [ツールバーの個人用設定...] を選択します。
[ツールバーの個人用設定] セッションが開始します。

- 3 ツールバーを個人用設定します。
以下のようなアクションを実行できます。

- コマンドの非表示・再表示を切り替えます。
非標準のコマンドを再表示にするときは、コマンドにアイコンが付いていることを確認してください。コマンドにアイコンがない場合は、リンクする必要があります。
- コマンドの順序を変更します。
- アイコンを非標準のコマンドにリンクします。これらは、[アクション] メニュー、[表示] メニューなどに表示されます。ツールバーにアイコンが表示されます。
- ツールバーボタンの間にさらに空白を追加します。

[ツールバーの個人用設定] セッションのオンラインヘルプを参照してください。

メニューの個人用設定

このオプションでセッションのメニューを個人用設定します。このオプションは、権限がなくても使用できます。

たとえば、次のメニューのコマンドの非表示・再表示を切り替えることができます。

- [検索] ボタンメニュー
- [アクション] ボタンメニュー
- [参照] ボタンメニュー
- [出力] ボタンメニュー

さらに、[出力] メニューにあるアクションの 1 つをデフォルトアクションとして設定できます。デフォルトのアクションにはチェックマークが表示されます。[出力] ボタンをクリックすると、このデフォルトアクションが実行されます。

セッションのメニューを個人用設定するには:

- 1 セッションのメニューバーにあるこのボタンをクリックします。



- 2 [メニューの個人用設定 ...] を選択します。
[メニューの個人用設定] セッションが起動します。
- 3 メニューを個人用設定します。セッションのヘルプを参照してください。

グリッドカラムの即時の移動

グリッド内のカラムの順序を変更するには、グリッド上の移動したい場所までカラムをドラッグします。

カラムの固定

概要セッションにあるカラムを固定するには、カラムヘッダで右クリックしてから、[このカラムを固定する] を選択します。

ワイドな画面で使用するときに便利な機能です。セッションウィンドウの反対側まで水平にスクロールしても、固定されたカラムは常に表示された状態になります。

列またはフィールドの非表示

概要セッションにあるカラムを非表示にするには、カラムヘッダで右クリックしてから、[このカラムを非表示にする] を選択します。

詳細セッションにあるフィールドを非表示にするには、[Alt] キーか [Ctrl] キーを押したままフィールドで右クリックします。次に [フィールドの非表示] を選択します。

個人用設定のエクスポート、インポート

個人用設定はコンピュータ上に XML ファイルとしてエクスポートすることができます。エクスポートしたファイルを他の LN 環境にインポートできます。これにより、個人用設定を他の環境にコピーします。

個人用設定を他の環境にコピーするには:

- 1 [セッションの個人用設定 (ttadv9403m000)] セッションを開始します。
- 2 個人用設定を XML ファイルにエクスポートします。
セッションのヘルプを参照してください。
- 3 他の LN 環境にログインし、[個人用設定のインポート (ttadv9503m000)] セッションを開始します。
- 4 XML ファイルをインポートします。
セッションのヘルプを参照してください。

メニューの個人用設定

サイドナビゲーションバーと [LN ナビゲータ] に表示される LN ナビゲーションメニューを個人用に設定できます。次の項目を個人用に設定できます。

- メニューを非表示にします。
- メニュー項目を再表示します。
- メニュー項目の順序を変更します。

この機能は、LN サーバーにツールのソリューション 1604255 またはそれ以降がインストールされていると使用できます。

LN サーバ上の ([ユーザデータテンプレート (ttams1110m000)] セッションの) ユーザデータテンプレートのプロパティで [アプリケーションの個人用設定を許可] チェックボックスがオンになっている場合にのみ、メニューを個人用に設定できます。

ショートカットメニューを使用したメニューフィールドの非表示設定

メニュー項目を非表示にするには、メニュー項目で右クリックしてから [メニューの非表示] を選択します。

メニュー項目がメニューから削除され、メニューが最新の情報に更新されます。

[メニューの個人用設定 (ttadv9205m000)] セッションで、非表示のメニュー項目を表示に切り替えます。

[メニューの個人用設定 (ttadv9205m000)] セッションによるメニューの個人用設定

[メニューの個人用設定 (ttadv9205m000)] セッションでメニューを個人用設定するには:

- 1 [オプション] > [メニューの個人用設定] を選択します。[メニューの個人用設定 (ttadv9205m000)] セッションが開始します。
- 2 メニューを個人用設定します。このセッションには、LN スタートアップメニューのツリー構造を表すメニューツリーがあります。ツリーにあるメニューをダブルクリックして、基になるメニュー項目を表示します。

以下のようなアクションを実行できます。

- メニュー項目の非表示・再表示を切り替えます。
- 表示するメニュー項目の順序を変更します。

[メニューの個人用設定 (ttadv9205m000)] セッションのオンラインヘルプを参照してください。

- 3 変更箇所を保存してから、[メニューの個人用設定 (ttadv9205m000)] セッションを閉じます。

重要度ラベルのサポート

LN UI では重要度ラベルが使用できます。

重要度ラベルにより、データの重要度レベルを指定します。

各重要度レベルにはそれに対応したラベルがあります。次の例を参照してください。

重要度レベル	重要度ラベル
10	通常
20	中
30	高
40	非常に高い

各重要度ラベルは色付けされています。

LN ツールで、重要度レベルを次の項目に指定することができます。

- テーブルフィールド
- テーブル
- セッション
- レポート

重要度ラベルはフォームやレポートに表示することができます。

詳細については、Enterprise Server オンラインヘルプの「重要度ラベル」を参照してください。

条件付フォーマット

LN UI はデータの条件付フォーマットをサポートします。LN セッションに表示されるデータに特殊なフォーマット効果を与えるための条件を設定できます。セッションごとに、複数の条件を設定できます。

次の種類のフォーマットを指定し、組み合わせて使用することができます。

- フィールドの前景色
- 行の警告記号

簡単な条件や複雑な条件など、さまざまな種類の条件を定義できます。次はその例です。

- [販売契約 (tdsls3500m000)] セッションでは、1 年を経過した全ての販売契約の契約日付を赤で表示します。
- [販売オーダーライン (tdsls4101m000)] セッションでは、所要オーダー数量より大きな数量をもつ全ての販売オーダーラインに警告記号を表示します。
- [製造オーダー (tisfc0501m000)] セッションでは、1～5 日遅延の全オーダーに対して警告記号を表示し、さらに計画納期を赤で表示します。

注:

- 条件付フォーマットは LN でのみサポートされています。
- LN サーバ上の ([ユーザデータテンプレート (ttams1110m000)] セッション上の) ユーザデータテンプレートのプロパティで [アプリケーションの個人用設定を許可] チェックボックスがオンになっている場合にのみ、フォーマットを定義できます。

条件付フォーマットの定義

条件付フォーマットを定義するには:

- 1 フォーマットを設定する対象となるセッションを開始します。
- 2 セッションのメニューバーにあるこのボタンをクリックします。

- 3 [条件付フォーマット] を選択し、[条件の編集] を選択します。[条件付フォーマット (ttadv9502m000)] セッションが開始します。
- 4 条件とフォーマットの設定を挿入します。
詳細については、[条件付フォーマット (ttadv9502m000)] セッションのオンラインヘルプを参照してください。
- 5 変更箇所を保存してから、[条件付フォーマット (ttadv9502m000)] セッションを閉じます。
- 6 フォーマットを設定した対象のセッションを再起動します。指定したフォーマットが自動的に適用されます。

注意内容:

- これらの手順で定義する条件付フォーマットは、ユーザのユーザアカウントのみに適用されます。
- スーパーユーザは全ユーザに適用するシステムフォーマットを作成できます。全ユーザに適用するフォーマットを作成するには、スーパーユーザは、LN [ツール] メニュー、または LN UI [オプション] メニューの [プログラムの実行] コマンドなどから、[条件付フォーマット (ttadv9502m000)] セッションを直接実行します。
- スーパーユーザはフォーマットを XML ファイルとしてエクスポートしたり、フォーマットを XML ファイルからインポートできます。このようにして、スーパーユーザはフォーマットを複数の LN 環境に分散できます。詳細については、[条件付フォーマット (ttadv9502m000)] セッションのオンラインヘルプを参照してください。
- マウスのポインタを条件付フォーマットの行かフィールドの上に移動すると、該当する条件の説明のツールチップが表示されます。

条件付きフォーマットの無効化

セッションを開始するごとに、そのセッションに設定した条件付フォーマットが自動的に適用されます。

条件付フォーマットを無効にするには:

- 1 セッションのメニューバーにあるこのボタンをクリックします。

- 2 [条件付フォーマット] を選択します。セッションに設定されているフォーマットが表示されます。
- 3 フォーマットを無効化するには、このチェックボックスをオフにします。

注: フォーマットが一時的に無効化されます。セッションを次回開始したとき、フォーマットが自動的に有効化されます。

セッションの開始時にフォーマットが無効化されるようにするには、フォーマットのプロパティを変更します。

- 1 セッションのメニューバーにあるこのボタンをクリックします。



- 2 [条件付フォーマット] を選択し、[条件の編集] を選択します。[条件付フォーマット (ttadv9502m000)] 概要セッションが開始します。
- 3 無効化するフォーマットを編集します。[条件付フォーマット (ttadv9502m000)] 詳細セッションが開始します。[有効化] チェックボックスをオフにします。

MS Excel の統合

テーブルからデータが直接表示される LN セッションでは、データを MS Excel にエクスポートしたり、MS Excel からインポートできます。セッションが開始すると、エクスポートするタブやカラムを選択できるようになります。続いてクイックエクスポートや高度なエクスポートを実行します。

エクスポートすると .xlsx ブックが生成されます。生成されたブックを開くには、次のいずれかが必要です。

- Microsoft Excel 2007 以降
- Microsoft Office 互換機能パックの Microsoft Excel 2003

セッションからデータをエクスポートした後は、Excel エクスポートブックを編集して、そのブックを同じセッションにインポートできます。編集権限のあるセルのみがインポートされます。

[Excel] ボタンと [エクスポートとインポート] メニュー

データを Excel にエクスポートするためのセッションでは、この機能が利用できます。

- [アクション] メニューにある [エクスポートとインポート] メニューには次のコマンドがあります。
 - [クイックエクスポート]: デフォルトの設定を使用して選択したデータを直接エクスポートします。
 - [高度なエクスポート]: エクスポートの設定を指定するためのセッションが開始します。
 - [エクスポートするフィールド]: エクスポートするフィールドを選択できるセッションが開始されます。
 - [設定]: すべてのセッションを対象とした一般的なエクスポート設定およびインポート設定を指定するためのセッションが開始します。
 - [インポート]: インポートの設定を指定するためのセッションが開始します。
- このセッションのツールバーにはこの [Excel] ボタンがあります。



このボタンをクリックして、一般的なエクスポート設定で指定されるデフォルトエクスポートに従ってエクスポートを実行します。

エクスポートの手順

エクスポートの実行前に、エクスポートプロセスの一般設定を指定します。一般設定は、セッション指定の設定がない全てのセッションに対して適用されます。

40 ページの「一般設定の指定」を参照してください。

セッションからデータをエクスポートする方法については、40 ページの「MS Excel にデータをエクスポート」を参照してください。

インポートの手順

インポートの実行前に、インポートプロセスの一般設定を行います。一般設定は、セッション指定の設定がない全てのセッションに対して適用されます。

40 ページの「一般設定の指定」を参照してください。

セッションにデータをインポートする方法については、41 ページの「MS Excel からのデータのインポート」を参照してください。

一般設定の指定

一般設定は、セッション指定の設定がない全てのセッションに対して適用されます。設定が必要となるのは一度のみです。

一般設定を指定するには:

- 1 データを Excel にエクスポートするためのセッションが開始します。たとえば、[販売オーダー (tdsls4100m000)] セッションを開始します。
- 2 [アクション] > [エクスポートとインポート] > [設定] を選択します。
[Excel との統合の設定 (ttstpssidef)] セッションが開始します。
- 3 エクスポート設定とインポート設定のデフォルトを指定します。セッションのヘルプを参照してください。このインポート設定は Infor Ming.le ユーザにのみ適用されます。
- 4 設定を保存し、[Excel との統合の設定 (ttstpssidef)] セッションを閉じます。

MS Excel にデータをエクスポート

エクスポートの機能について説明します。

- クイックエクスポート
- 高度なエクスポート

クイックエクスポートの実行

- 1 データのエクスポート元のセッションを開始します。
- 2 [アクション] > [エクスポートとインポート] > [クイックエクスポート] を選択します。
エクスポートが開始します。
このエクスポートプロセスでは、セッションのエクスポートデフォルト、あるいは一般的なエクスポート設定を使用します。
 - 以下の条件を満たす場合は、セッションのエクスポートデフォルトが使用されます。

- セッションのエクスポートデフォルトが保存されている場合。
41 ページの「高度なエクスポートの実行」を参照してください。
- [Excel との統合の設定 (ttstpsidef)] セッションの [クイックエクスポートにセッションデフォルトを使用] チェックボックスがオンである場合
- これ以外の場合は、[Excel との統合の設定 (ttstpsidef)] セッションで指定された一般設定を基にエクスポートが行われます。

高度なエクスポートの実行

- 1 データのエクスポート元のセッションを開始します。
- 2 エクスポート対象のフィールドを任意で選択します。
 - a [アクション] > [エクスポートとインポート] > [エクスポートするフィールド] を選択します。
[エクスポートするフィールド (ttadv9310m100)] セッションが開始します。
 - b エクスポート対象のフィールドやタブを選択します。セッションのヘルプを参照してください。
 - c 選択項目を保存し、[エクスポートするフィールド (ttadv9310m100)] セッションを閉じます。
 - d データのエクスポート元のセッションを開始します。
- 3 エクスポートを開始します。
 - a [アクション] > [エクスポートとインポート] > [高度なエクスポート] を選択します。
[高度なエクスポート (ttstpssexp)] セッションが開始します。
 - b エクスポートの設定を指定します。例えば以下のような指定を行います。
 - スプレッドシートファイルが生成される場所
 - 生成後にファイルを自動的に開くかどうかセッションのヘルプを参照してください。
 - c 任意で、[デフォルトを保存] をクリックして、現在の設定をセッションのデフォルトのエクスポート設定として保存します。[Excel との統合の設定 (ttstpsidef)] セッションの [クイックエクスポートにセッションデフォルトを使用] チェックボックスをオンにすると、クイックエクスポートの次回実行時に、保存したデフォルト設定が使用されます。
 - d [続行] をクリックします。
指定した設定に従ってエクスポートが開始します。

MS Excel からのデータのインポート

- 1 Infor Ming.le で、データをインポートする先のセッションを開始します。
- 2 [アクション] > [エクスポートとインポート] > [インポート] を選択します。[インポート (ttstpsiiimp)] セッションが開始します。
- 3 必要な設定を行い、[インポート] をクリックします。セッションのヘルプを参照してください。

インポートダイアログで、Excel ファイルの場所の指定が必要です。Excel の [ファイル] タブからこの場所をコピーできます。

インポート結果の確認

インポートの結果は Excel インポートファイルの A から C 列に保存されます。インポート結果を確認するには、これらの列の内容を表示します。

A 列にエラー条件が表示されます。B と C 列にインポートエラーの詳細が表示されます。エラーがない場合は、A 列に「OK」が表示され、B と C 列は空です。

顧客定義フィールド

LN では、テーブルフィールドを追加できます。追加テーブルフィールドは、カスタマイズをしなくてもセッションフォーム上に表示されて、それを編集することができます。これによって、追加の情報を LN テーブルに保存できます。このような追加フィールドは、顧客定義フィールド (CDF) と呼ばれます。

前提条件

顧客定義フィールドを追加するためには、[顧客定義フィールド (ttadv4591m000)] セッションに対して認可されていることが必要です。

さらに、LN 環境に対して CDF が有効化されていることも必要となります。これには、顧客定義フィールドパラメータを設定します。詳細については、『Infor Enterprise Server - Administration Guide』の「顧客定義フィールド」を参照してください。

顧客定義フィールドの追加

顧客定義フィールドをテーブルに追加するには:

- 1 対象となるテーブルがメインテーブルとして使用されているセッションを開始します。次はその例です。
 - 従業員 - 一般 (tccom001) テーブルに顧客定義フィールドを追加するには、[従業員 - 一般 (tccom0101m000)] セッションを開始します。
 - 販売オーダー (tdsls400) テーブルに顧客定義フィールドを追加するには、[販売オーダー (tdsls4100m000)] セッションを開始します。
- 2 セッションのメニューバーにあるこのボタンをクリックします。

- 3 [顧客定義フィールド] を選択します。[顧客定義フィールド (ttadv4591m000)] セッションが開始します。

- 4 希望する顧客定義フィールドを追加します。詳細については、[顧客定義フィールド (ttadv4591m000)] セッションのオンラインヘルプを参照してください。

セッションの個人用設定

顧客定義フィールドがセッション内にある場合には、以下が実行できます。

- 顧客定義フィールドの非表示・再表示
- タブなど、別の場所への顧客定義フィールドの移動

32 ページの「セッションの個人用設定」を参照してください。

セッションのプロパティの表示

- 1 セッションを開始します。
- 2 [Ctrl]+[Shift]+[8] を押します。
[プロパティ (ttksession)] セッションが開始します。このセッションには次の情報が表示されます。
 - セッションに関する情報、セッションデータ、認証、フォームに関する情報
 - オブジェクトの情報
 - 環境(開発と Bshell) に関する情報
 - 4GL エンジンの情報
 - クエリデータ
 - ユーザのデータ

カラムとフィールドのオンラインヘルプの表示

概要セッションにあるカラムのオンラインヘルプを表示するには、カラムまたはカラムヘッダで右クリックしてから、[フィールドヘルプ] を選択します。

詳細セッションにあるフィールドのオンラインヘルプを表示するには、[Alt] キーか [Ctrl] キーを押したままフィールドで右クリックします。続いて [フィールドヘルプ] を選択します。

セッションのカラムの強調表示

LN セッションでカラムを強調表示できます。この方法により特定のカラムに注意を引くことができます。

これは、次のような場合に便利です。

- プレゼンテーションを行うとき
- スクリーンショットを作成するとき

カラムを強調表示するには、カラムヘッダをクリックし、マウスボタンを押し続けます。強調表示を解除するには、マウスボタンを離します。

グリッド内のカラムサイズの変更

カラム幅を変更するには:

- 1 グリッドヘッダのカラム区切をマウスポインタで指します。ポインタが両方向矢印に変わります。
- 2 両方向矢印をクリックして、右か左にドラックします。

画像

[窓口 (tccom1640m000)] セッションなど、一部の LN セッションには画像を追加できる画像ボックスがあります。

画像の追加

次の方法で画像を追加します。

- Web ブラウザや Windows エクスプローラウィンドウから画像をドラッグし、セッションの画像ボックス上にドロップします。
- Web ブラウザや Windows エクスプローラウィンドウから画像をコピーし、セッションの画像ボックス上に貼り付けます。
- マウスのポインタを画像ボックス上にポイントします。参照ボタンが表示されます。このボタンをクリックしてフォルダを選択し、画像を選択します。

詳細については、該当するセッションのオンラインヘルプを参照してください。

セッションに追加された画像は、LN サーバの画像リポジトリに保存されます。

大きいイメージは自動的に拡大縮小されて、セッションの画像ボックスに合うように処理されます。小さい画像を追加した場合は、画像を拡大するかどうかの確認が表示されます。

画像の削除

画像を削除するには、セッションにある画像のボックスにマウスを移動します。画像の近くに十字型の記号が表示されたら、それをクリックします。セッションおよび画像リポジトリから画像が削除されます。

ION Workflow サポート

セッションの一部は ION Workflow で利用できます。これらのセッションで、ビジネスオブジェクトを更新します。変更箇所は承認用に提出されます。変更箇所が承認されると、ビジネスオブジェクトをさらに処理できるようになります。

詳細については、『Infor Enterprise Server - Administration Guide』の「ドキュメントの承認」を参照してください。

このテーブルは、ION Workflow で利用可能なセッションの追加コマンドです。

コマンド	説明
送信	選択したオブジェクトを承認のために送信します。 このコマンドはセッションのツールバーにあります。
取消	オブジェクトの変更箇所を無視するように要求します。たとえばすでに送信したオブジェクトを更に変更したい場合などに、このコマンドを使用します。 このコマンドは、セッションの [アクション] メニューにあります。
承認時の状態に戻す	オブジェクトの変更箇所をすべて元に戻します。 このコマンドは、[保存] ボタンのプルダウンメニューにあります。

クイックフロー

LN セッションのさまざまな機能は、クイックフローで利用できます。クイックフローを使用すると、プロセスステップが表示されなくなり、プロセスを最適化することができます。

たとえば、出力プロセス、セッションメニューやツールバーのプロセスアクションを最適化するために、次の項目が表示されないように設定できます。

- レポートのデバイス選択ダイアログ
- メニューアクションのオプションダイアログ
- 質問ダイアログ
- メッセージダイアログ

管理者は個人用設定されたセッションやダイアログを他のユーザに公開できます。

クイックフローによるプロセスの最適化

セッション内のメニューオプション用にクイックフローを有効にするには:

- クイックフローのオプションが有効化されていることを確認します。次のステップを実行します。
 - セッションを開始します。
 - メニューオプションがあるメニューを開きます。
 - マウスポインターをメニューオプションに移動します。クイックフローのオプションが有効化されている場合は、メニューオプションの背景にグレーの稲妻アイコンが表示されます。これは、デフォルト設定がまだ保存されていないことを示します。選択したオプションに属するダイアログは非表示になりません。

クイックフローのメニューオプションが有効化されている場合は、次の手順に進みます。

- メニューオプションのデフォルト設定を保存します。次のステップを実行します。
 - メニューオプションを選択します。該当するダイアログが表示されます。
 - ダイアログでデフォルト設定を指定します。
 - ダイアログの次のボタンをクリックして、[デフォルトを保存] を選択します。

 - ダイアログを閉じます。
- マウスポインターをメニューオプションに再度移動して、フラッシュアイコンをクリックします。アイコンの色が黒に変わります。クイックフローがメニューオプションで使用できるようになります。
- テストします。次のステップを実行します。
 - セッショングリッドで最低 1 つのレコードを選択します。
 - クイックフローを有効化したメニューオプションを選択します。該当する設定ダイアログが表示されなくなります。

例

[調整オーダ (whinh5120m000)] セッションの [出力] メニューに、[調整オーダ] オプションがあります。このオプションを選択すると、[調整オーダ出力 (whinh5420m000)] セッションが開始します。このセッションには複数のタブがあります。デバイスを選択し、レポートの選択範囲と各種のオプションを指定します。クイックフローを使用すると、これらのタブを使用せずにレポートを直接出力できます。

[調整オーダ出力 (whinh5420m000)] セッションのタブが表示されないようにするには、次の手順を実行します。

- [調整オーダ (whinh5120m000)] セッションを開始します。
- セッションの [出力] メニューにある [調整オーダ] オプションにマウスポインターを移動します。灰色の稲妻アイコンが表示されます。これは、クイックフローのメニューオプションが有効化されていることを示します。
- [出力] メニューにある [調整オーダ] オプションを選択します。[調整オーダ出力 (whinh5420m000)] セッションが開始します。このセッションで、次のステップを実行します。
 - セッションのタブで、デバイス、選択範囲、その他のオプションなどのデフォルト設定を指定します。
 - このボタンをクリックします。



- [デフォルトを保存] を選択します。

- マウスポインターを [調整オーダー] オプションに再度移動して、フラッシュアイコンをクリックします。アイコンの色が黒に変わります。クイックフローが [調整オーダー] オプションで使用できるようになります。
- [調整オーダー (whinh5120m000)] セッションに戻ります。セッションのグリッドで最低 1 つのレコードを選択し、[出力] メニューから [調整オーダー] を選択します。調整オーダーレポートが直接出力されます。

メッセージと質問の抑制

出力プロセスとプロセスアクションでは、メッセージや質問を表示できます。

LN の設定によっては、「情報」や質問などのメッセージを非表示にできます。「重要」と「警告」のメッセージは非表示にできません。

メッセージを非表示にするには、メッセージダイアログで、[このメッセージを再表示しない] を選択して [OK] をクリックします。

質問を非表示にするには、質問ダイアログで、[この質問を再表示しない] を選択して適切な回答ボタンをクリックします。

注: LN アプリケーション管理者が LN でメッセージと質問の非表示設定を有効化した場合にのみ、メッセージや質問を非表示にできます。

メッセージと質問の非表示設定を元に戻す

メッセージの非表示設定を元に戻すには:

- このボタンをクリックします。



- [メッセージのリセット] を選択します。

質問の非表示設定を元に戻すには:

- このボタンをクリックします。



- [質問のリセット] を選択します。

[質問のリセット (ttadv9102m000)] セッションが開始されます。セッションのヘルプを参照してください。

デフォルトの出力アクションの設定

セッション内の一部のメニューでは、デフォルトのアクションを設定することができます。たとえば、[出力] ボタンメニューには複数のアクションが存在します。そのうちの 1 つをデフォルトアクションに指定できます。[出力] ボタンをクリックすると、このデフォルトアクションが実行されます。

34 ページの「メニューの個人用設定」を参照してください。

Infor Ming.le-LN Plug-in のサイドナビゲーションバーから、LN DEM プロセスを開始することができます。プロセスを開始すると、アプリケーション画面に業務プロセスがグラフィック表示されます。

アプリケーション画面のグラフィック表示では、画像は対話式です。それにはプロセスを示すものと、LN セッションまたは他のモデルアプリケーションを示すものがあります。プロセスをグラフィック表示することによって、日常の作業を実行します。

DEM プロセスの使用

DEM によって、LN アプリケーションをプロセスをベースとしてナビゲーションすることができます。アプリケーションベースのナビゲーションは、アプリケーションをフォルダとモジュール、パッケージに論理的にバンドルします。一方、プロセスベースのナビゲーションでは、このようなアプリケーションをユーザのタスクに従ってバンドルします。その結果、アプリケーション自体に集中するのではなく、ユーザの実行するタスクが中心となります。図は特定の順番でアクティビティを示します。タスクごとに、個別の業務プロセスが作成できます。アクティビティとは、LN セッションやURL、マニュアルアクティビティ、Microsoft Office アプリケーションなどです。

DEM を使用するときは、権限の設定に依存します。この権限の設定は、システム管理者が作成します。ユーザにより、まったく異なるワークダイアグラムが表示されることもあります。

DEM プロセスの開始

サイドナビゲーションバーから、モデラで定義した DEM プロセスを開始することができます。アプリケーション画面のグラフィックを利用して作業できます。記号をクリックすると、アクティビティが開いて、タスクを実行できます。これらの図は、プロセスやプロセスの一部を表すものです。

プロセスをクリックすると、順序の概略や、ジョブを完了するために実行する必要があるタスクの数が表示されます。

複数のプロセス間の切り替え

複数の DEM プロセスを開始すると、最後に開始したプロセスのみがアプリケーション画面に表示されます。他のプロセスは開いた状態のままであるが、表示されません。開いたままのプロセスのタブが、LN 画面の上に表示されます。開かれているプロセス間を切り替えるには、タブをクリックします。

LN UI は、Infor Ming.le によって決定される言語とロケールの設定に従います。言語とロケールの設定を変更するには、『Infor Ming.le User Guide』の「デフォルトの地域設定の変更」を参照してください。

以下のテーブルに、LN UI においてサポートされているロケールが表示されています。

ロケール	説明	ロケール	説明
ar-DZ	アラビア語 (アルジェリア)	de-DE	ドイツ語 (ドイツ)
ar-BH	アラビア語 (バーレーン)	de-LU	ドイツ語 (ルクセンブルグ)
ar-EG	アラビア語 (エジプト)	de-CH	ドイツ語 (スイス)
ar-IQ	アラビア語 (イラク)	iw	ヘブライ語
ar-JO	アラビア語 (ヨルダン)	hi	ヒンディー語
ar-KW	アラビア語 (クウェート)	hu	ハンガリー語
ar-LB	アラビア語 (レバノン)	it-IT	イタリア語 (イタリア)
ar-LY	アラビア語 (リビア)	it-CH	イタリア語 (スイス)
ar-MA	アラビア語 (モロッコ)	ja	日本語
ar-OM	アラビア語 (オマーン)	ko	韓国語
ar-QA	アラビア語 (カタール)	pl	ポーランド語
ar-SA	アラビア語 (サウジアラビア)	pt-BR	ポルトガル語 (ブラジル)
ar-SD	アラビア語 (スーダン)	ro	ルーマニア語
ar-SY	アラビア語 (シリア)	ru	ロシア語
ar-TN	アラビア語 (チュニジア)	sr-BA	セルビア語 (ボスニア・ヘルツェゴビナ)
ar-AE	アラビア語 (アラブ首長国連邦)	sr-ME	セルビア語 (モンテネグロ)
ar-YE	アラビア語 (イエメン)	sr-RS	セルビア語 (セルビア)
bs	ボスニア語	sl	スロベニア語

インターナショナル化

ロケール	説明	ロケール	説明
bg	ブルガリア語	es-AR	スペイン語 (アルゼンチン)
zh-CN	中国語 (簡体字、中国)	es-BO	スペイン語 (ボリビア)
zh-TW	中国語 (繁体字、台湾)	es-CL	スペイン語 (チリ)
hr	クロアチア語	es-CO	スペイン語 (コロンビア)
cs	チェコ語	es-CR	スペイン語 (コスタリカ)
nl-BE	オランダ語 (ベルギー)	es-CU	スペイン語 (キューバ)
nl-NL	オランダ語 (オランダ)	es-DO	スペイン語 (ドミニカ共和国)
en-AU	英語 (オーストラリア)	es-EC	スペイン語 (エクアドル)
en-CA	英語 (カナダ)	es-SV	スペイン語 (エルサルバドル)
en-IN	英語 (インド)	es-GT	スペイン語 (グアテマラ)
en-IE	英語 (アイルランド)	es-HN	スペイン語 (ホンジュラス)
en-MT	英語 (マルタ)	es-MX	スペイン語 (メキシコ)
en-NZ	英語 (ニュージーランド)	es-NI	スペイン語 (ニカラグア)
en-PH	英語 (フィリピン)	es-PA	スペイン語 (パナマ)
en-SG	英語 (シンガポール)	es-PY	スペイン語 (パラグアイ)
en-ZA	英語 (南アフリカ)	es-PE	スペイン語 (ペルー)
en-GB	英語 (英国)	es-PR	スペイン語 (プエルトリコ)
en-US	英語 (米国)	es-ES	スペイン語 (スペイン)
fr-BE	フランス語 (ベルギー)	es-US	スペイン語 (米国)
fr-CA	フランス語 (カナダ)	es-UY	スペイン語 (ウルグアイ)
fr-FR	フランス語 (フランス)	es-VE	スペイン語 (ベネズエラ)
fr-LU	フランス語 (ルクセンブルク)	tr	トルコ語
fr-CH	フランス語 (スイス)	uk	ウクライナ語
de-AT	ドイツ語 (オーストリア)		